

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)		
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し定例ミーティングや日頃の支援を通じて理念の確認をしながら実践につなげている。	運営理念を掲示し、管理者と職員が参加する月例ミーティングにおいては理念に則った支援を実践するよう話し合いを行なっている。	6項目の理念は、各ユニットの職員室に掲示し、月2回のミーティング時に実践の中で話し合い共有している。職員採用時は、認知症についての理解も含めて2日間の研修を行っている。職員は、普通の人が普通の生活をするのだという意識を持って日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日々のかいもの(スーパーマーケット)、美容院、飲食店など日常的に交流して情報交換を行なっている。いる。	町内会に加盟し、文化祭や防災行事など地域の行事に積極的に参加している。	区費を納めて区に加入している。町の文化祭を見学したり防災訓練にも参加している。近所の人が畑仕事を手伝ってくれる。歩いて3分ほどのスーパーマーケットには食材の買い物に毎日出かけており地域の方とは日常的に交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々外に出歩く事が理解に繋がっているのではないかと。毎月3回火曜日認知症カフェ(オレンジサロン)を開催している。	毎週火曜日にホーム内の多目的室にて認知症カフェを開催し、認知症の方やそのご家族、また認知症の予防に取り組んでいる方々の相談や交流の場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームに対するご意見やご要望。また地域の行事などの情報を提供して頂くなど情報交換を行なっている。	ご町内の方、地域包括、ご家族、ご入居者等に参加していただき、様々なご意見をいただいている。そこで得られたご意見は日々の運営や支援に活かしている。	偶数月の第4水曜日の午後2時間ほど開催している。事業所の入り口の側溝が危険ということで蓋をつけ看板を立てた。水害時は河川近くの住民の避難場所に事業所を使ってもらい、反対に事業所の災害時は近くの小学校を利用したい等積極的な話し合いが出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取るように心掛け、協力関係を築けるように努力している。	運営推進会議に介護支援課の方や地域包括支援センターの方に参加して頂き、ホームでの取り組みや課題等を共有している。	市の地域包括ケア会議に出席している。月1回発行の「だんだん便り」を発送して事業所の取り組み等を理解してもらっている。また、新しい事業についての相談する等市との協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のユニット長会議にて身体拘束についての話し合いの場を設けている		身体的な拘束は行っていない。スピーチロックについても勉強会の中で具体的に話して気をつけている。ヒヤリハット報告書については、身体状況・薬・環境的な問題等の原因分析を明らかにして事故に繋がらない様になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	関わりが虐待とならないように振り返りのばを持つことが大切。	虐待につながる言動が職員により行なわれていないかリスクマネジメント委員会にて毎月確認し、また日頃から不適切ケアについても早期発見に努め注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な経歴の方々を通して、実際に使っている制度や使う可能性がある制度について学ぶ機会を持つ。	成年後見人制度に関しては、研修等で学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、必要な際に制度のご案内・説明などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より十分な説明を行ない理解して頂いている。	入居前の面談から徹底した自立支援を行なう場所であること。それによる可能性とリスクがあることをお伝えする時間を持ち、ご本人、ご家族に納得いただくようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族懇談会を開き運営に関する意見交換の場としている。	介護支援課、地域包括、民生委員の方々が参加する運営推進会議、及び家族懇談会など、運営に対する外部発信及び意見交換の場を持っている。	家族懇談会を年2回実施している。家族の面会時にも気軽に話が出ている。食材費の余り金の還元については、各個人に返済よりも利用者全体に使ったどうかと意見があり、今年度は、ブドウ狩りの日帰り旅行を実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を設けて意見交換を行なっている。	月例ミーティングの中で職員の意見や提案を聞き、サービス提供に反映させている。 個別面談を行ない、職員ひとりひとりの意見を聞き反映するよう努めている。	月2回の夜7時から8時半のミーティングは、半分を業務改善について話し合う時間になっている。「手すりを付けるか」「トイレを引き戸に」「職員室の開放はどうか」「夏日の水やりはどうするか」等活発に意見が出る。また、年2回の個別面談でも自由に意見が言える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの事情をの耳を傾け、各自が向上心を持ってはたけられるように環境や条件の整備に努めている。	スタッフ個々の事情を踏まえ、平等な職場環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多くもち(外部の研修)スキルアップに努めている。	外部講師を招聘して研修を行ったり、外部研修への参加機会を持ち、職員の識能向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北杜市における連絡会に参加し、少しずつ交流の機会を作っている。	北杜市の介護支援課が主催する事例検討会に参加してサービスの質向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごとや要望に耳を傾けながら安心できる環境作りに努めている。	本人の能力、意向、家族との関係、協力体制など、実現可能なことを探り、なじむ場づくり安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や要望に耳を傾けながら認知症ケアの専門職として対応に努めている。	ご本人の状況をみながらあくまで認知症ケアの専門職として対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療職を含めチームで見極めを行ない、適切な対応を検討している。	医療職含めチームで見極めを行ない、適切な対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし敬意を表し支えあう関係を築いていくように努力をしている。	ご本人にとって大切な事、思い入れのあること、こだわりのあること、それらをしっかり把握した上で支援を行なう。その方の世界をしっかりと知ることから始め、寄り添っていけるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や本人の意思や希望を大切に支えている。またお誕生日会にはご家族様の希望も取り入れて開催し関わりを深めている。	ご家族の本人との関わりや個々にあるご家族様の思いを大切に。誕生日会や旅行行事など一緒に過ごせる時間作りのお手伝いをさせて頂き、ご家族様とも信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移住者が半数を占めており、どのような支援が適切なのか悩みながら支援にあたっている。	ご友人やご家族が来訪されたときは歓迎し、いつでも気軽にお越しいただけるようアットホームな雰囲気づくりを心がけている。また、ご本人の思い出の場所や馴染みの店などに由りかけることで関係が継続できるよう努めている。	友人と一緒に映画に出掛けたり、歌の仲間の来所がある。生まれ育った所に買い物の中で立ち寄り、パンの日はおいしいパン屋さんに行く等日頃からコミュニケーションを取りながら馴染みの場所や人等を聞きだす様にして支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同僚が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が主役になれる場を作りつつ、お互いが認め合う関係を築いていけるよう努めている。	日々の生活の様子の中から利用者同士の関係性を観察し、それぞれの方が生活の主体として尊重され、支え合えるよう、職員が適切な距離感をもって支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、自宅に引き取ること、他の施設に移る事も可能であることを伝えて体制を整えている。	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、自宅に引き取ること、ほかの施設に移ることも可能であることを伝えて体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人一人の思いに寄り添い、したい事を実現する様に努めている。	その方にとって過ごしやすい環境とはどのような事なのか、生活歴などからの把握に加え、日々関わりの中でご本人の反応などとあわせて観察し、ご本人がやりたいことができるよう、行きたいところに行けるよう支援するよう努めている。	可能な限り利用者の意向は尊重したいと考えている。職員と1対1で諏訪湖に行きたい希望の利用者については、企画書をスタッフで検討して実施になった。思いを伝えられない利用者は、生活歴や家族の話・テレビの関心事・食事の状況等からの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に記入して頂き把握に努めている。	今までの生活の場や大切に思われている場所や物などの情報を入居前にご記入いただき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で細かな観察をし、有する能力に応じてそれが発揮出来るような支援に努めている。	日常生活の中で観察を行ない、心身状態、現状を把握してケアプランへ反映させ、職員全員で情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例ミーティングなどで話し合い内容を検討し介護計画に反映している。	ご本人の生活を支える上で必要な支援について月例ミーティング等で話し合い、具体的な内容や頻度を介護計画に反映し、医療や家族の協力、地域資源など地域全体のチームとして支援に取り組んでいる。	入所時の暫定プランは、1~3か月後に見直している。その後大きな変化がない場合は、6か月毎に見直している。月2回の月例ミーティングは、参加者全員で利用者の状況について話し合っている。小さな変更はここでを行い常に個々の利用者に向けた介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は電子入力と筆記を活用している。それらの記録の内容は支援の見直しに役立っている。(連絡ノート)	介護記録は電子入力と筆記を並行活用し、その時の様子や発言内容など細かい内容を記載し、勤務者間の申し送りの際は記録及び口頭により情報共有している。それらの記録の内容は支援の見直し等に活用している。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームわいわい白州	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○家族から「お散歩の支援の希望」などがあれば柔軟に対応している。	○医療面については訪問看護事業所との連携により、すぐに対応可能なものはすぐに対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○地域の文化祭やお祭りなどには積極的に参加して交流を深めている。	○地域の文化祭やお祭りなどの行事には積極的に参加している。推進会議などでは地域の方に参加いただき、地域行事等の情報を共有し、ご入居者がそれらに参加できるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○基本はこれまでの主治医を推奨し、医療の選択が出来ない様な時にはこちらで紹介出来るような体制を取っている。	○基本はこれまでの主治医を推奨し、医療の選択にお困りの場合にはこちらでご紹介できる体制をとっている。	○半数以上の利用者が利用前のかかりつけ医となっている。受診は家族対応となっているが、必要時はメモにて利用者の状況を伝え、受診結果は連絡帳で全職員が共有している。現在2名の往診医がいるが夜間の往診も可能である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○訪問看護や看護職の職員と連携し、受診や往診、その場での医療処置に対応している。	○訪問看護や看護職の職員と連携し、受診や往診、その場での医療処置に対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	○情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行なっている。	○入院の際は、医療機関へ情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い看護師やソーシャルワーカーと連絡をとり相談するよう努めている。また、退院に向けご家族様とも連携をとり、退院カンファレンスが開催さ	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○取り組んでいる。	○終末期の在り方について契約時に書面で説明するとともに、実際に体調変化があった場合には様々な可能性について提示できるよう体制をとっている。	○今のところ看取りの利用者はいないが看取りの体制は出来ている。看護師が3名いて介護に携わり夜勤も行っている。普通の生活を支援という視点で重度の利用者の対応についても全職員でその時その時の情報を共有して対応していく。看取り期になれば往診が可能なかかりつけ医に変更していただく様になる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○初期対応の訓練を定期的に行っていない。実践力を身につけることが出来ていない。	○月例ミーティングにて緊急時の対応について随時確認している。緊急対応マニュアルを作成し適切な対応ができるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○今年中に防災訓練を行う予定です。地域との協力体制は気づけている。	○消防計画及びマニュアルを作成し、それらに沿って行なっている。	○消防署の指導を受けて①消火 ②通報 ③避難の防災訓練を実施した。消火器は全員が使い、通報の仕方を学び、重度な利用者の避難方法についても指導を受けた。今後夜間を想定した訓練も必要とアドバイスを受けた。事業所から近い職員が半数いるので心強い。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけが出来ている。	○ご入居者一人ひとりの人格を尊重し、丁寧かつ親しみを込めた言葉かけや態度で支援している。	○言葉のみでなくボディタッチしながらの支援に心がけている。昔からの呼び名や本人・家族が決めた呼び名にしている。また、同性介護については男性・女性ではなく一人ひとりに合ったケアの工夫をして無理のない支援をしている。まさに普通の生活支援である。

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように様に働きかけている。	ご本人がやりたい事や行きたい場所、食べたい物など、ご自身で決定できるよう支援し、そのことを実現できるようチームとして計画性をもって行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している。	ご入居者それぞれのペースで生活ができるよう、職員同士が常に連携をとりながら円滑に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。	ご本人の個性と意思を尊重し、ご本人が好きな服装やヘアースタイル、装飾などが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行なえている。	食事時間やメニューは職員が事前に決めるのではなく、何を食べたいかはご入居者が主体で話し合い、献立が決定してから必要な食材を調達したり、出前をとったりなど食事の過程すべてを楽しめるよう支援している。	昼食は、お茶の時間に、夕・朝食はおやつ時に皆でメニューを決めている。その後食材の買い物に行く。徒歩3分位にスーパーマーケットがあり利用者にとっては散歩と地域との交流の良い機会になっている。利用者は、調理・盛り付け・片付けをこく自然に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している。	ご入居者の食事摂取量及び水分摂取量を把握し記録に残している。体調不良時や食事が進まないとき等は栄養バランスや本人の好き嫌いなどを考えて状態に合わせた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いせず行なっている。	その方に合わせた口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行なっている。	排泄の失敗がある場合は、その原因を分析してトイレでの排泄が円滑に行なえるよう支援する。	「オムツをしながら楽しめる人生もある」と考え無理失理にはオムツ外しに拘らない事業所の思いがある。しかし、要介護5でトイレ排泄の利用者や、布オムツに戻った利用者もいる。個々の状態に合ったリハビリパンツを使用している等排泄の自立に向けた支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。	ご入居者が食べたい物を美味しく食べられるためにもスムーズな排泄は重要であるため、食べたい物に加えて、乳製品や食物繊維の多い食品などを一品加えるとともに屋内の移動や外出などで体を動かすよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	している。	職員の都合で入浴時間や場所を決めるのではなく、ご本人の希望を尊重した入浴支援を行なう。	1日3~4名が夕食前までの自由な時間に入浴している。入浴が嫌いな利用者の対応は難しいが「お風呂が沸いていますがどうですか?」という言葉が「けて誘ってみましたり、時間や対応者を替える等の工夫をしている。シャンプーや入浴剤等利用者の好みに合わせている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く寝るように支援している。	日中と夜間の様子を把握した上でその方の体調を見ながら、疲労感が見られる時は無理に起こさず休んでいただくようにしている。不眠時には、温かい飲み物や甘いもの等を提供して安心感を持って頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。	服薬に関する能力を個々に見きわめて、その方に合わせた服薬支援を行なう。 職員が薬の内容等を把握できるよう、薬情報をファイル化して共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。	ご入居者が受動的に日常生活や行事、外出を楽しむのではなく、それぞれの得意分野を活かして、企画会議に参加したり、物品を調達したりと、個々の役割をもって生活を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出には、食事を作るための食材調達など生活に欠かせない外出から、映画を見に行ったり外出に出かけたり様々な機会があるが、それらの機を逃さないようスケジュールのみならず体調管理にも留意し、家族や地域の方々と協力しながら支援を行なっている。	日常的な外出には、食事を作るための食材調達など生活に欠かせない外出から、映画を見に行ったり外出に出かけたり様々な機会があるが、それらの機を逃さないようスケジュールのみならず体調管理にも留意し、家族や地域の方々と協力しながら支援を行なっている。	テレビのニュースで新しいお店が出来た時には、その店に食べに出かけたり、図書館に行く等利用者の希望が出た時には可能な限り対応している。お花見・虫狩り・ブドウ狩りなど3台ある事業所の車を有効に使用して外出している。外出しやすい環境であり日常的に利用者は外の空気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など気に入った物があり、購入する際にはご自分のお財布からお支払いする事を支援している。	その方の希望や能力に応じて、買い物時に現金を所持したり、使ったりすることができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来るよう支援している。	ご要望に応じて手紙のやり取りが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	共用の空間を配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	住んでいることを意識できるよう、「家」のような雰囲気、疲れた時には少し休めるような場所や、ご入居者同士がくつろいで交流できるような落ち着いた雰囲気になっている。また臭気の除去が円滑に行なえるよう、随所に設置された換気扇や換気窓を活用している。	1階にある居間は、天井が吹き抜けで広々としている。木目のついた1枚板のテーブルは、床暖房と共に温かみがあり利用者の心を寛がせるのに十分である。居間と続いているキッチンは整頓されているが家庭的な感じがある。使いやすいトイレや浴室・畳敷の廊下・両側に手すりの付いた階段等に暮らしの工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームで皆さんでくつろいだり、個々の部屋でくつろいだりと様々なお好きなように過ごされている。また1人で寂しい思いをされている時などにはリビングルームや気の合いそうなかたのお部屋にご案内をしたり工夫をしている。	共用空間で他の入居者と過ごしたり、プライバシーが保たれる居室で自由に過ごせたり、また居室に人を招き入れたり、思い思いのスタイルで過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族が馴染みのあるものを持参し、居心地よく過ごせるように工夫している。	入居前まで使用していた家具をなるべく用意していただいている。	基本的にはクローゼットのみ事業所の提供であるが、トイレ・洗面所付きの居室もある。各居室には表札がありドアにはスタンドガラスの窓がありおしゃべりな雰囲気である。利用者は、馴染みの筆筒や鏡台等で自分好みの居室づくりをして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	有する能力に応じながら安全でできるだけ自立した生活が送れるように支援している。	その方に分かりやすい方法で伝わるよう、使用されている居室の把握や表記内容も個人に合わせた表現にしている。		